

短歌創作の実際

【笑いをふくむ歌・続】

講座内容

人間が生きてうたう歌でありたい。たとえ拙くとも、生きてかがやく歌を求めたいと思います。そのための基礎は、良い歌を充分に読み味わうこと。本講座では、テーマ別に秀歌名歌を読み味わい、語彙、語法を学びつつ、実作に生かしていきます。今回は、現代の笑いをふくむ歌について見ていきます。笑いはとてもむずかしいテーマですが、老いと笑いとはよく調和します。先人はどんな歌を作ったのか、その詩の深みを味わいしつつ、実作の参考にしてみましょう。希望者は毎回実作レポートや鑑賞文を提出することができます。

期 間	10月6日～12月15日	受講料	7,500円
曜 日	月曜日	定 員	30名 ※最少催行人数 9名
時 間	13:20～14:50	会 場	横浜・関内キャンパス
回 数	全3回	持ち物	筆記用具、辞書、原稿用紙等
教 材	講師が配布資料を用意します。		
備 考	●この講座は9月29日(月)までに中止の連絡が無ければ開催となります。		

講座スケジュール

回数	日 程	内 容
1	10月 6日(月)	笑いをふくむ歌・続① 山崎方代・二宮冬鳥の笑いの歌をみていきます。実作ワンポイント。
2	11月10日(月)	笑いをふくむ歌・続② 小池光・島田修三の笑いの歌をみていきます。実作ワンポイント。
3	12月15日(月)	歌会 実作を出し合って、批評会をします。初心者でも大丈夫です。

講師紹介



阿木津 英(あきつ えい)

現代歌人協会会員 日本文藝家協会会員

一九七四年作歌を始める。第二波フェミニズム興隆の時代を共に歩いてきた。「産むならば世界を産めよものの芽の湧き立つ森のさみどりのなか」(第一歌集『紫木蓮まで・風舌』)。以後、日本語をもってつくる歌という韻文形式の森に分け入って久しい。歌集『天の鴉片』『黄鳥』ほか。評論集『二十一世紀短歌と女の歌』『アララギの釋道空』ほか。